
岩井秀人構成・演出『ワレワレのモロモロ ジュヌビルエ編』 日仏共同製作によって刻まれた演劇史の 新たな1ページとなる公演、遂に千秋楽！ ジャポニスム 2018：響きあう魂



©KOS-CREA 写真提供：国際交流基金

「岩井秀人は、彼の出発点に戻り、信じられないほどの力強さで想像という世界へ素材と登場人物を集めに冒険に出かけ作品を紡ぎ出す。しかも彼はここにしかない物語たちに出会い、普遍性へと繋がる作品を生み出したのである。」（2018年11月26日リュマニテ紙）

2018年7月よりパリを中心にフランスで開催中の日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」。その約70にも及ぶ公式企画のひとつ、「岩井秀人構成・演出『ワレワレのモロモロ ジュヌビルエ編』」を2018年11月22日から12月3日まで国立演劇センター ジュヌビルエ劇場で上演し、無事その幕を閉じました。

2003年より劇団「ハイバイ」を主宰する劇作家・演出家・俳優の岩井秀人。引きこもりの経験や、家庭内の暴力など岩井自身の体験をもとに演劇作品を作り続けてきました。『ワレワレのモロモロ』は出演者が自分自身の人生を戯曲にし、岩井が構成・演出した作品であり、これまでに『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018 春』などの作品が生まれました。

パリ市北部に隣接するジュヌビルエ市は移民が多く、日々を逞しく生き抜く人々が暮らす街。華やかなフランスのイメージとは裏腹に、フランスの現在を映し出すこのジュヌビルエ市で岩井が取材と長期滞在を重ね、出会ったプロフェッショナルとアマチュアのフランス人俳優たち。彼らが語る“人生”によって綴られる「ワレワレのモロモロ ジュヌビルエ編」は83歳のルシエンヌと6歳年下の夫ミシェルのお話、モロッコ系移民二世で労働闘争に参加するアブダラー、親戚の住むアルジェリアでの暴力的な思い出を語るサリマ・・・「フランス人というアイデンティティとは？」「家族とは？」「本当の自由、平等、博愛とは？」。国籍と人種を超えて現代に生きる「ワレワレ」に疑問を投げかける作品となり大きな感動を呼び、現地フランスメディアでも取り上げられるなど、好評を博しました。

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■公演概要

現代演劇シリーズ—岩井秀人構成・演出『ワレワレのモロモロ ジュヌビリエ編』

- ・日 時 : 2018年11月22日(木)～12月3日(月) *全10公演
- ・会 場 : 国立演劇センター ジュヌビリエ劇場 <フランス・ジュヌビリエ>
- ・主 催 : 国際交流基金、国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
- ・共 催 : 東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、フェスティバル・ドートンヌ・パリ
- ・協 力 : quinada

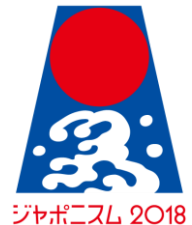
「ジャポニスム 2018：響きあう魂」とは

日仏友好160年の本2018年、両国政府間合意に基づき、芸術の都フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム2018：響きあう魂」を開催中。パリ内外の100近くの会場を舞台に、約8か月間に亘り、美術展、舞台公演、映画、その他食や工芸など日本人の日常生活により密着した文化まで含め、さまざまな日本の芸術と文化を、古典から現代まで幅広く紹介します。会期を通じ、約70の公式企画を実施。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本文化の多様な魅力をパリに、またパリを通して世界に向けて伝えます。

会期：2018年7月～2019年2月

事務局：独立行政法人国際交流基金

公式ウェブサイト：<https://japonismes.org/>



ジャポニスム 2018

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp